

81 卵巣癌と卵巣子宮内膜症の関連についての病理組織学的検討

九州大

小川伸二, 加末恒壽, 矢幡秀昭, 尼田 寛
平川俊夫, 嘉村敏治, 中野仁雄

〔目的〕卵巣癌と子宮内膜症との関連について病理組織学的に検討する事を目的とした。

〔方法〕1979年から1995年に当科で初回手術を行った卵巣癌126症例を対象として, 卵巣子宮内膜症の有無について病理組織学的に検討した。また, 内膜症から癌へ移行している部分の組織所見に着目して発癌との関連を検討した。観察した組織切片の枚数は4~51枚, 平均14.7枚であった。

〔成績〕卵巣に子宮内膜症を認めたものは明細胞腺癌43例中31例(72.1%), 類内膜腺癌7例中4例(57.1%), 漿液性腺癌59例中3例(5.1%), 粘液性腺癌17例中0例であり, 明細胞腺癌と類内膜腺癌は他の2つの組織型よりも有意に高い合併頻度を示した。明細胞腺癌において子宮内膜症から癌への移行を21例(67.7%)に認めた。また明細胞腺癌に合併した子宮内膜症において軽度の細胞異型を21例(67.7%), 重層化を16例(51.6%), 乳頭状増殖を4例(12.9%)に認めた。類内膜腺癌では軽度の細胞異型を3例(75%), 重層化を3例, 乳頭状増殖を1例(25%)に認めた。

〔結論〕明細胞腺癌と類内膜腺癌の多くに卵巣子宮内膜症が合併していた。更に内膜症と癌の部分の間には細胞異型, 重層化, 乳頭状増殖等の前癌病変と思われる所見が介在する症例が多く認められ, 明細胞腺癌と類内膜腺癌の発生と子宮内膜症との関連が示唆された。

82 卵巣癌におけるアンドロゲンレセプター遺伝子増幅と細胞増殖能との相関—間期細胞遺伝学および免疫組織化学的検討—

岩手医大

松田壯正, 中田尋晶, 利部正裕, 利部輝雄

〔目的〕最近, アンドロゲンレセプター (AR) 陽性卵巣癌の頻度が高い事が報告された。閉経後卵巣から分泌される主なステロイドはアンドロゲンで, 卵巣癌が閉経後に好発することから, 卵巣癌の発生・増殖にアンドロゲンがそのレセプターを介して重要な働きをしていることが予測される。卵巣癌におけるAR遺伝子の存在様式とその増殖能との相関を検討した。

〔方法〕卵巣癌(漿液性腺癌)20例の手術標本を対象とした。(1)間期細胞遺伝学: 塗沫標本に dual color fluorescence in situ hybridization (FISH)を適用し, 各症例100個の細胞を観察した。AR数とX染色体数の比 (AR/X) が1以上の細胞が, 10%以上観察された時をAR遺伝子増幅例とした。(2)免疫組織化学: 酵素抗体法でARタンパクの発現を検索した。細胞増殖能の検討には MIB-1 (Ki-67) 標識率をもちいた。

〔成績〕14例でAR遺伝子の増幅が観察され, 増幅はX染色体構造に一致して観察された。そのうちの12例でX染色体の増加は観察されず, 2例でX染色体の増加を伴った。平均AR/Xは症例によって大きく異なり, また増幅を示す細胞のAR/Xも多様であった(1.1~5.6)。増幅の無い6例でもX染色体数の増加が観察されたが, AR/Xは1で, AR遺伝子の増幅は無かった。免疫組織化学的ではARは核に局在し, ARタンパク陽性率とAR遺伝子増幅の有無はよく相関した。MIB-1標識率とAR/Xの間に正の相関があった。

〔結論〕卵巣癌ではAR遺伝子が高率に増幅され, ステロイドレセプターの増幅が腫瘍の増殖を促進していることが示唆された。